

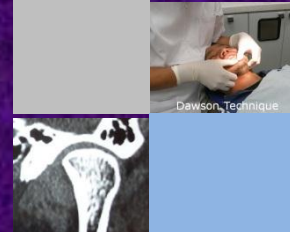
新しい顎関節症の概念と治療法

—こうすれば治る顎関節症—

最近の歯科医学の発展は、インプラントに代表されるように目を見張るものがあります。しかし、**顎関節症治療**に関しては、この30年ほど停滞したままで、新しい展開が期待できない状態です。しかし、顎関節症患者さんは確実に増加し、専門の医療機関に紹介しても治癒しないまま送り返されるというのが現状です。

解決策が得られない一番大きな要因は、**原因が解らないから治療法がない**ということです。30年ほど前は咬合が原因であるということからオーラルリハビリテーションと称する大がかりな治療を施され、全て失敗に終わりました。この失敗の原因を究明しないままに咬合原因説は葬り去られました。

私は、顎関節症患者さんから咬合という因子を取り除ければ、顎関節症の原因が咬合かどうかを見極めることができると考えました。そして、患者さんから咬合の因子を取り除く3Dスプリントの開発に成功しました。3Dスプリント装着者の70%の顎関節症々状は消褪しました。さらに、関節円板前方転位を2～3ヶ月で治癒させるスプリントの開発にも成功しました。この全てのKnow Howを**実習**を交えながらお伝えしたいと思います。詳細は、つぎのURLをご覧ください。
<http://www.kamerukameru.com/> ブログには、さらに詳しい情報が記載されています。



田中 武

青山田中歯科医院
日本歯科大学補綴大学院卒
日本歯科大学講師

プログラム

- 顎関節症とは？
- 顎関節症治療の世界的な潮流
- 顎関節症の原因
- 顎関節症の診断
 - 口腔内診断・咬合診断
 - 咬合機能テスト(実習)
 - 正面写真の分析(実習)
 - 画像診断(CT,MRI)
- 顎関節症の分類
- 筋骨格安定位の意義と求め方
- 関節円板偏位 (咬合違和感)の症状と治療
 - 顎関節症と体の歪み
 - 顎関節症と身体症状・精神症状
 - 3Dスプリントの原理と効果
 - 3Dスプリントの作製(実習)
 - Dawson Techniqueの意義と採得法(実習)
- 関節円板前方転位の症状と治療
 - 復位性関節円板前方転位の治療
 - 非復位性関節円板前方転位の治療
 - 新しい関節円板前方転位対応スプリント
- 下顎運動異常が原因する顎関節症
- その他の顎関節症と対応
- 筋骨格安定位での咬合
 - 咬合調整(実習)
 - 修復治療
 - 矯正治療

Seminar Information

受講料 (消費税・昼食・器具代込) **130,000円**

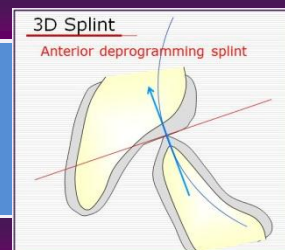
カボ研修室

御殿山トラストタワー15F
東京都品川区北品川4-7-35

2012年 **8月11日** **土** 10:00～17:00

12日 **日** 9:00～16:00

定員**24名**



お申込み方法

- 下記申込書にご記入の上、FAXにてお申し込み下さい。お申し込みは先着順です。
- 担当より折り返し「確認書」をお送りいたしますので、受講料は確認書到着後1週間以内に、指定口座にお振込み下さい。
- ご入金をもちまして正式お申込みとさせていただきます。ご入金後の返金には応じかねますので、予めご了承下さい。

お申込み・お問い合わせ

青山田中歯科医院・上柳(かみやなぎ) 〒107-0061 港区北青山2-7-17 Tel:03-3405-6480 Fax:03-3405-6807

ふりがな		歯科医院名	ご住所	
お名前			Tel	
E-mail				